

**株式会社4°Cホールディングス**  
**(東証一部 8008)**

**第69期(2019年2月期)決算説明会**

2019年4月10日

**4°C** holdings group

# Contents

## I. 2019年2月期決算概要

## II. 中期的戦略アプローチ

## III. 2020年2月期業績予想

(株)4°Cホールディングス 代表取締役会長・CEO 木村 祭氏

代表取締役社長・COO 瀧口 昭弘

※資料内の数値は百万円未満を切り捨て表示し、百分率は原データから算出しております。

当資料の業績予想に関する記述、及び客観的事実以外の記述に関しましては、当社が現時点で入手可能な情報から得られた判断に基づいておりますが、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、これらの記述のみに全面的に依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。実際の業績は、当社の事業をとりまく経済情勢、市場の動向、為替レートなどに関わる様々な要因により、記述されている業績予想とは大幅に異なる可能性があることをご了承ください。

# Contents

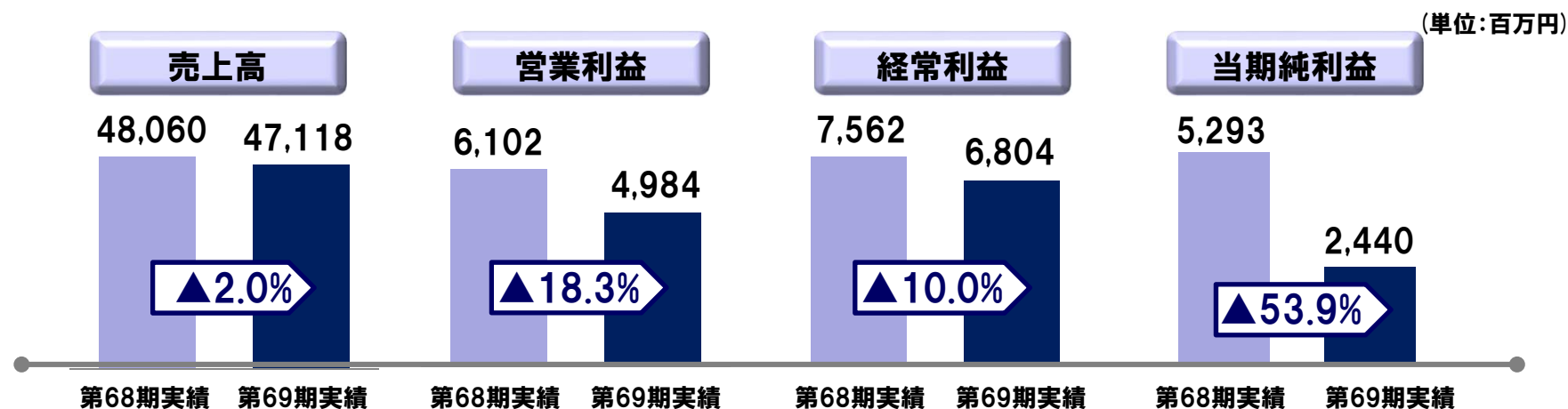
## I. 2019年2月期決算概要

## II. 中期的戦略アプローチ

## III. 2020年2月期業績予想

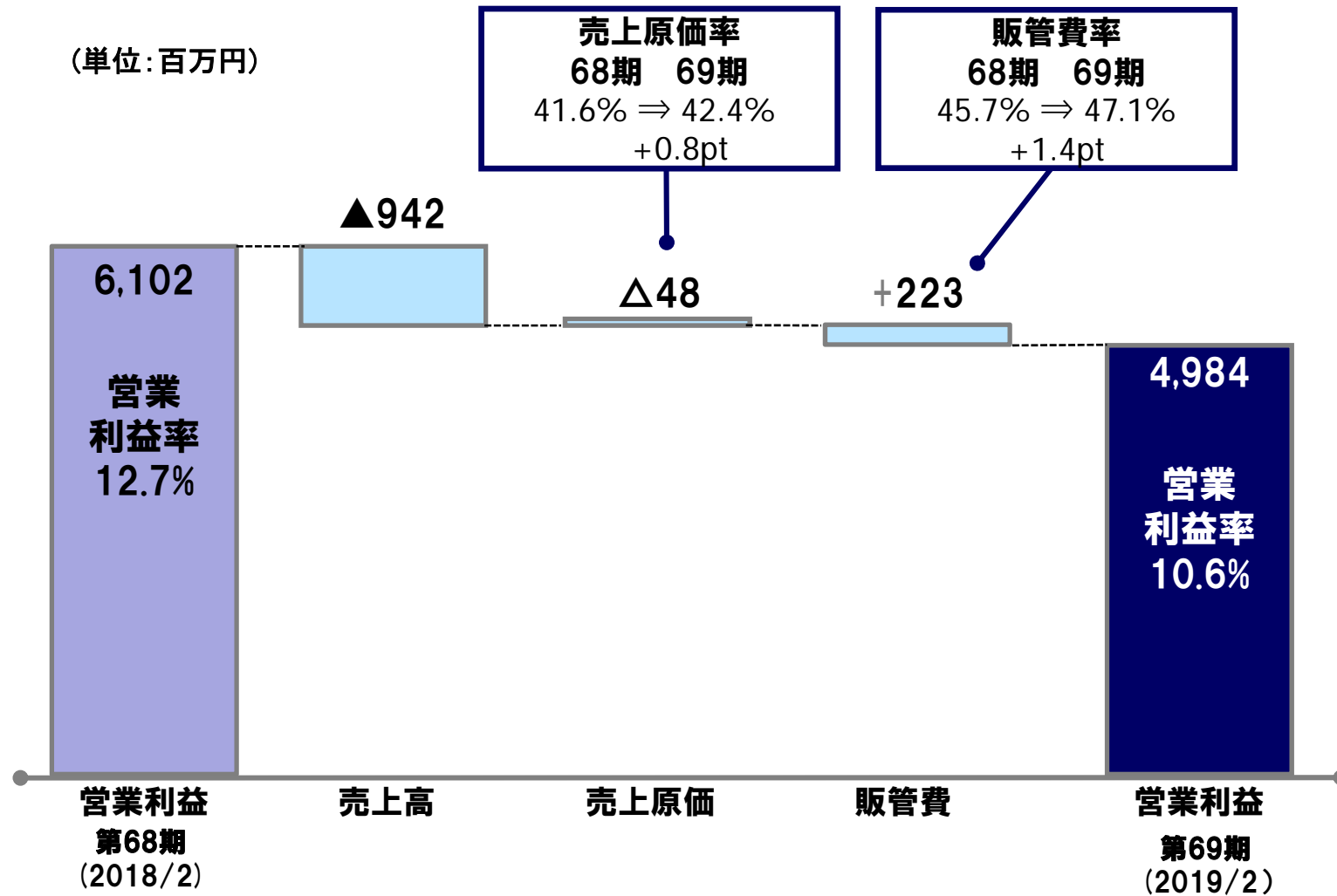
# 2019年2月期連結業績の概要

- ジュエリー事業の既存店回復の遅れ等により、減収減益
- 期中の事業再編の影響により一時的要因として営業外収益、特別損失、税金費用が発生



(百万円、%)	第68期 (2018/2)		第69期 (2019/2)		第69期 (2019/2)		前期比 増減(%)	計画比 増減(%)
	実績	(%)	計画 (修正後)	(%)	実績	(%)		
売上高	48,060	100.0	48,000	100.0	47,118	100.0	▲2.0	▲1.8
売上総利益	28,049	58.4	27,554	57.4	27,155	57.6	▲3.2	▲1.4
売上総利益率	58.4		57.4		57.6		+0.2pt	▲0.8pt
販売管理費	21,947	45.7	22,254	46.4	22,171	47.1	+1.0	△0.4
営業利益	6,102	12.7	5,300	11.0	4,984	10.6	▲18.3	▲5.9
経常利益	7,562	15.7	6,850	14.3	6,804	14.5	▲10.0	▲0.6
当期純利益	5,293	11.0	2,800	10.4	2,440	5.2	▲53.9	▲12.7

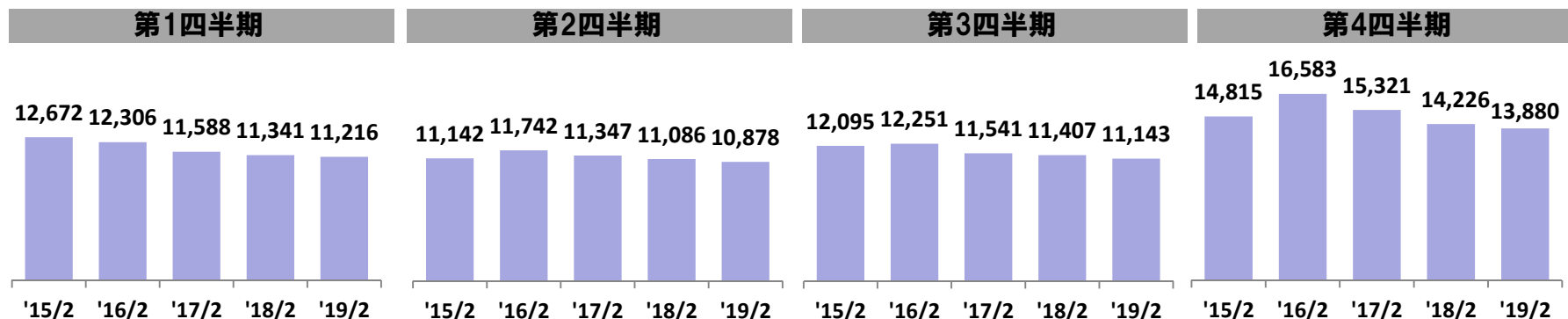
# 営業利益の状況



# 四半期業績の推移

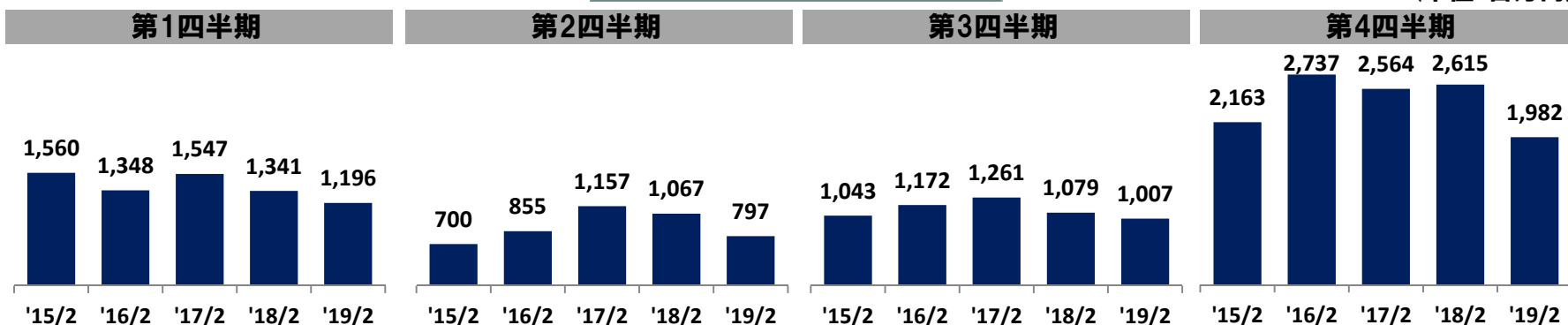
## 売上高

(単位:百万円)



## 営業利益

(単位:百万円)

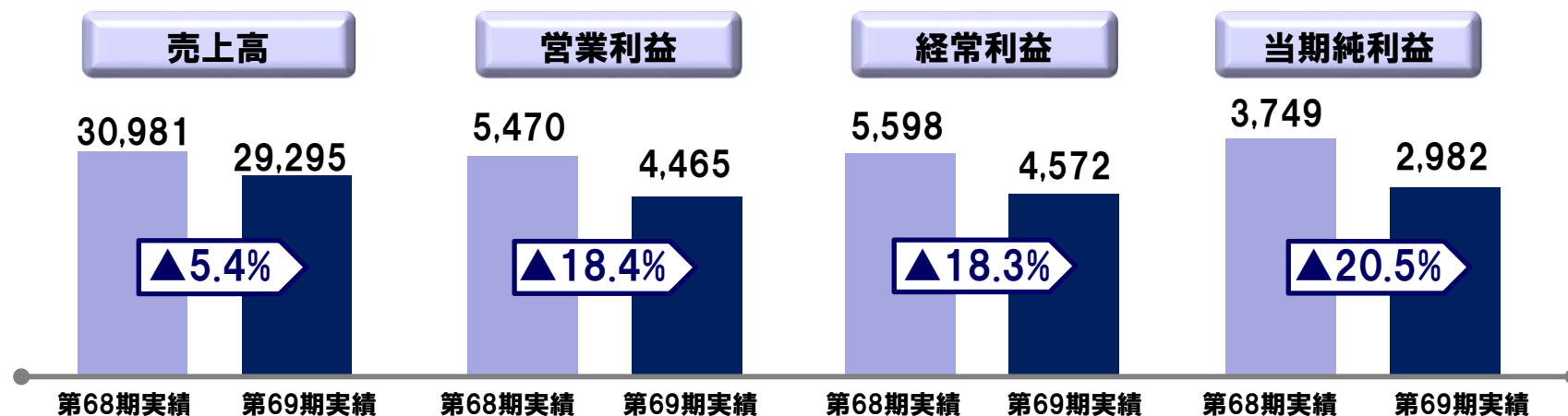


(単位:百万円)	第68期 累計 (2018/2)	第69期 1Q期間	第69期 2Q期間	第69期 3Q期間	第69期 4Q期間	第69期 累計 (2019/2)	前期差	前期比 (%)
売上高	48,060	11,216	10,878	11,143	13,880	47,118	▲942	▲2.0
売上総利益	28,049	6,497	6,085	6,460	8,112	27,155	▲893	▲3.2
営業利益	6,102	1,196	797	1,007	1,982	4,984	▲1,118	▲18.3

# セグメント別業績の概要～ジュエリー事業

- ブライダルジュエリーの回復の遅れ、およびクリスマス商戦における既存店売上高が前年を下回り、減収減益
- 2019年2月期より価格帯別ゾーン展開をスタート、自家需要の拡大に一定の成果

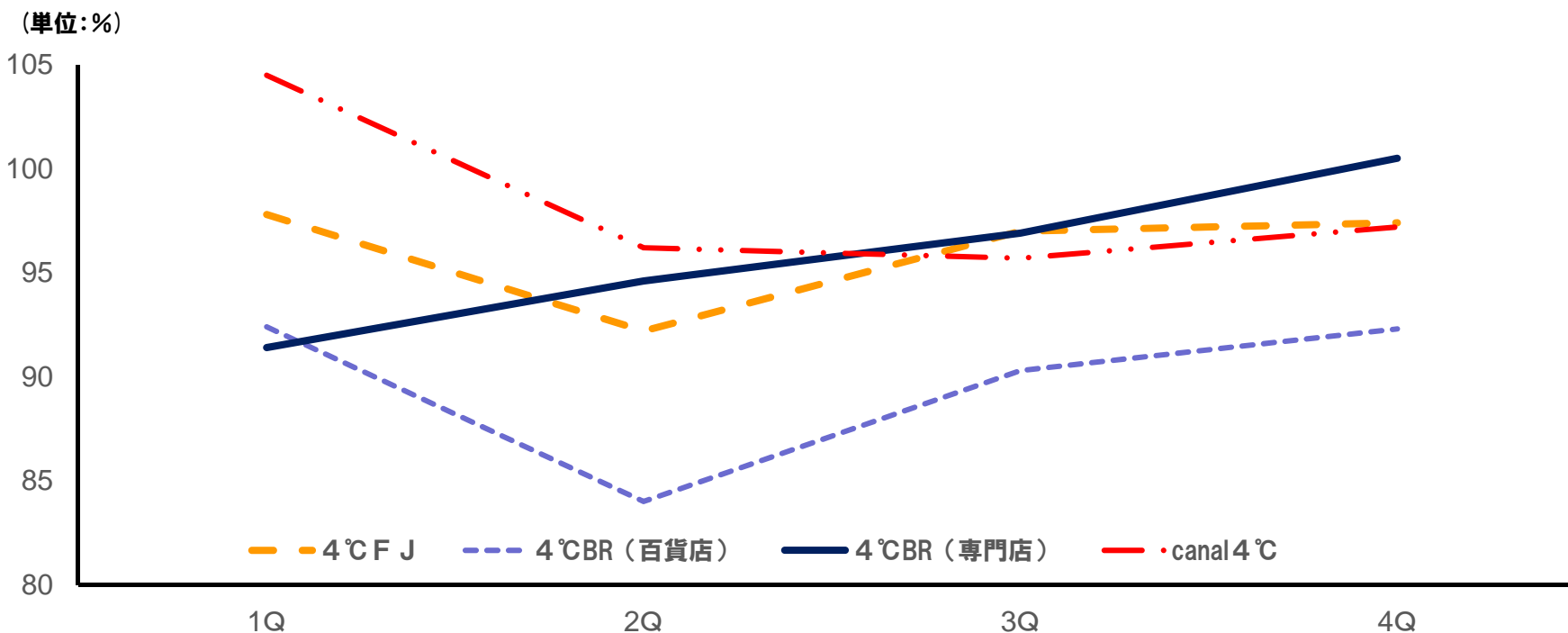
(単位:百万円)



(百万円、%)	第68期(2018/2)		第69期(2019/2)				前期比 増減(%)	計画比 増減(%)
	実績	(%)	計画 (修正後)	(%)	実績	(%)		
売上高	30,981	100.0	29,900	100.0	29,295	100.0	▲5.4	▲2.0
営業利益	5,470	17.7	4,650	17.9	4,465	15.2	▲18.4	▲4.0
経常利益	5,598	18.1	4,780	18.2	4,572	15.6	▲18.3	▲4.4
当期純利益	3,749	12.1	3,100	12.3	2,982	10.2	▲20.5	▲3.8

# ジュエリー事業 主カブランド既存店売上高四半期推移

## 百貨店チャネルの4℃ブライダルジュエリー以外は回復傾向



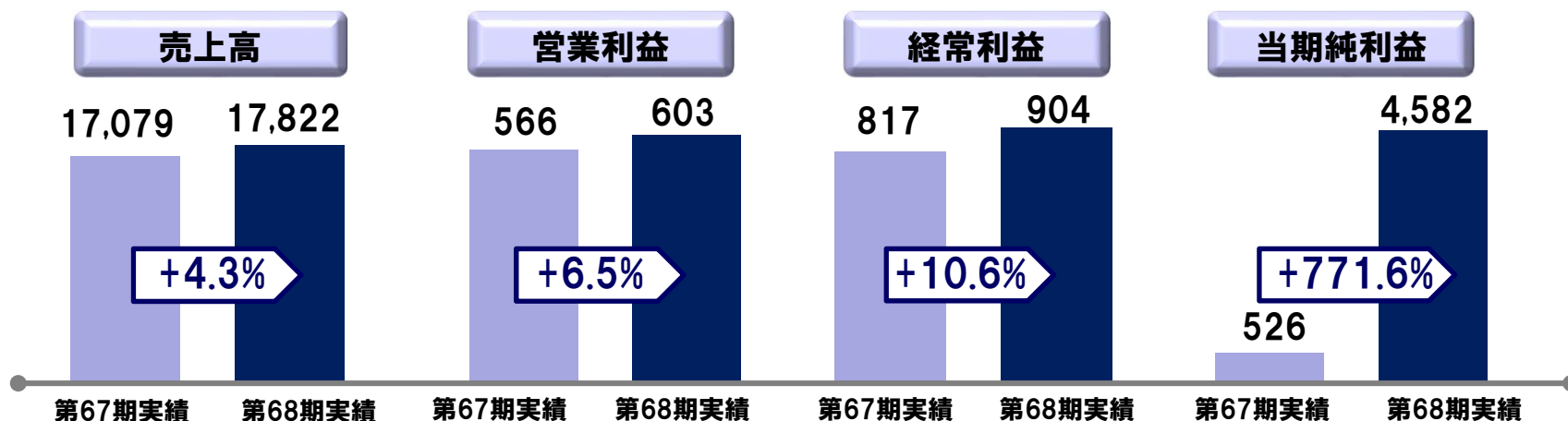
既存店	1 Q	2 Q	上期	3 Q	4 Q	下期	年間
4℃ F J	97.8	92.2	94.9	97.0	97.4	97.3	96.3
4℃ B R (百貨店)	92.4	84.0	87.8	90.3	92.3	91.4	89.7
4℃ B R (専門店)	91.4	94.6	93.1	96.9	100.5	98.9	96.3
canal 4℃	104.5	96.2	100.3	95.7	97.2	96.6	98.2



# セグメント別業績の概要～アパレル事業

- アパレルメーカー事業、デイリーファッション事業ともに順調、増収増益
- アパレルメーカー事業、主力得意先との取り組み強化が奏功し好調に推移
- デイリーファッション事業、出店拡大と販促施策の強化で前期を上回る推移

(単位:百万円)



(百万円、%)	第68期 (2018/2)		第69期 (2019/2)				前期比 増減(%)	計画比 増減(%)
	実績	(%)	計画 (修正後)	(%)	実績	(%)		
売上高	17,079	100.0	18,000	100.0	17,822	100.0	+4.3	▲1.0
営業利益	566	3.3	700	3.9	603	3.4	+6.5	▲13.9
経常利益	817	4.8	1,000	5.6	904	5.3	+10.6	▲0.1
当期純利益	526	3.1	990	5.5	4,582	25.7	+771.6	+362.8

# 財政状態、キャッシュ・フローの状況(連結)

- 総資産599億円、負債163億円、純資産435億円
- 資本政策の実行により投資有価証券▲64億円、純資産▲98億円
- 財務CF、自己株式の取得に72億円、株主還元配当約18億円

## 財務状況

2019年2月末時点

総資産 599億円	163億円	負債
	435億円	純資産

## キャッシュ・フロー

(単位:百万円)	第68期 (2018/2)	第69期 (2019/2)	差額
営業CF	5,427	1,664	△3,763
投資CF	△3,023	5,407	+8,430
財務CF	△1,665	△9,344	△7,679
フリーCF	2,403	7,071	+4,668

# 設備投資・減価償却費の概要(連結)

設備投資額 : 8.9億円 減価償却費 : 11.2億円

(百万円、%)	第68期 (2018/2)	第69期 (2019/2)	前期差
	実績	実績	

設備投資額 1,230 895 △335

(百万円、%)	第68期 (2018/2)	第69期 (2019/2)	前期差
	実績	実績	

減価償却費 1,116 1,123 +7

# 出退店の状況

- ジュエリー事業はスクラップ&ビルドを推進
- アパレル事業は6店舗の純増

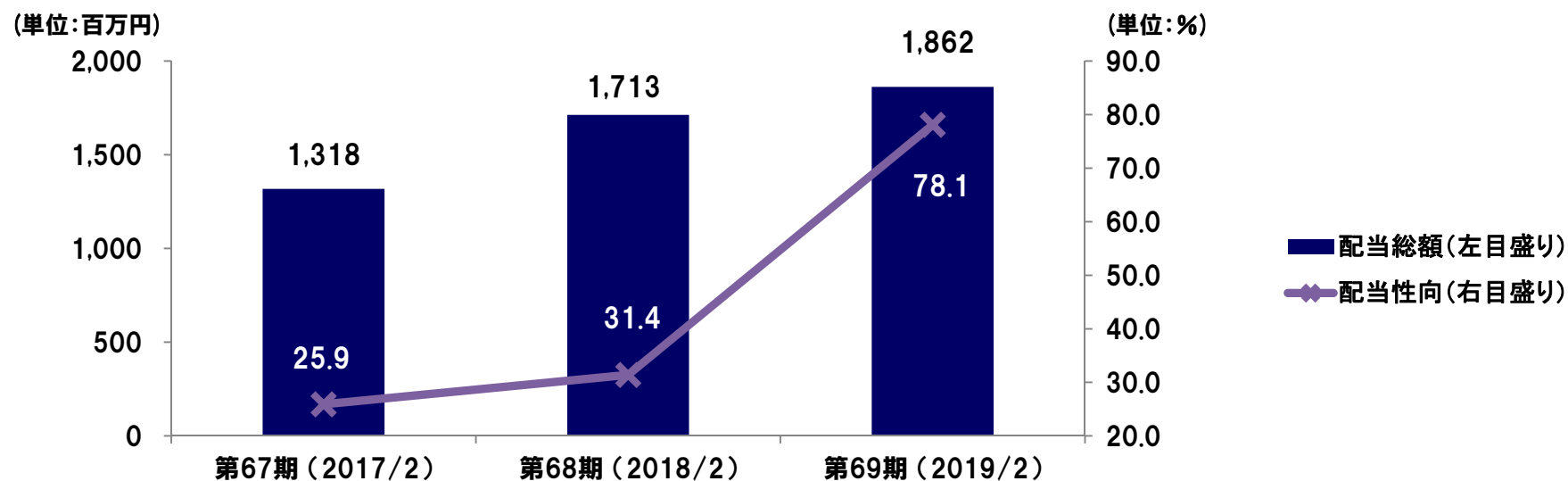
		ジュエリー事業					アパレル事業		合計
		国内					海外	パレット	
		路面店 ブティック	百貨店	ブライダル ショップ	ファッション ビル	計			
第68期 (2018/2)	期末	5	79	43	90	217	5	65	287
第69期 実績 (2019/2)	出店	0	3	0	2	5	0	8	13
	退店	0	6	1	6	13	1	2	16
	期末	5	76	42	86	209	4	71	284

# ジュエリー事業における国内取扱いブランド店舗数の状況と計画

		4°C	4°C BRIDAL	canal4°C	EAU DOUCE 4°C	MAISON JEWELL	ジュエリー計	Luria4°C	合計
第68期 (2018/2)	期末	92	43	48	23	7	213	61	274
第69期 実績 (2019/2)	出店	2	0	2	0	1	5	0	5
	退店	3	1	4	0	1	9	10	19
	期末	91	42	46	23	7	209	51	260

※同一店舗にて複数のブランドを扱う複合店は各ブランドごとに1店舗として計上

- 安定的・継続的な配当を基本とし、機動的な自己株式取得も視野に
  - 2019年2月期はTOBにより約325万株(約72億円)の自己株式取得を実施
  - 2019年2月期の年間配当金は、前期比10円増配の75円(8期連続増配)



	第67期 (2017/2)	第68期 (2018/2)	第69期 (2019/2)
1株当たり年間配当金(円)	50.0	65.0	75.0
配当性向(%)	25.9	31.4	78.1
総配分性向(%)	—	—	374.1

# Contents

I. 2019年2月期決算概要

**II. 中期的戦略アプローチ**

III. 2020年2月期業績予想

## 従来の経営指標の考え方

『持分法による投資利益』を念頭におき  
『経常利益』を重要な経営指標と位置づけ

## 今回の見直し

株主還元の水準を適切に判断するため、  
キャッシュベースに近い利益額を経営指標とする

- 事業再編により(株)フジが持分法適用関連会社の対象外へ
- 資金流出のない費用項目である『のれん』の影響を除外

『経常利益』から『のれん償却前営業利益』へ

※のれん償却前営業利益＝営業利益＋のれん償却額



① ROE 10%<sup>※</sup>以上

② EPS 200円<sup>※</sup>以上

③ 連続増配、将来的に年間配当100円を目指す

※ のれん償却前当期純利益にて算出

(のれん償却前当期純利益 = 親会社株主に帰属する当期純利益 + のれん償却額)

□ 大規模な自己株式の取得により株主還元の水準向上を図るとともにROE・EPSを更に高めていく

## ◆2019年4月10日リリース

### 自己株式の取得

・取得上限：135万株(35億円)

※発行済み株式総数(自己株式除く)に対する5.85%

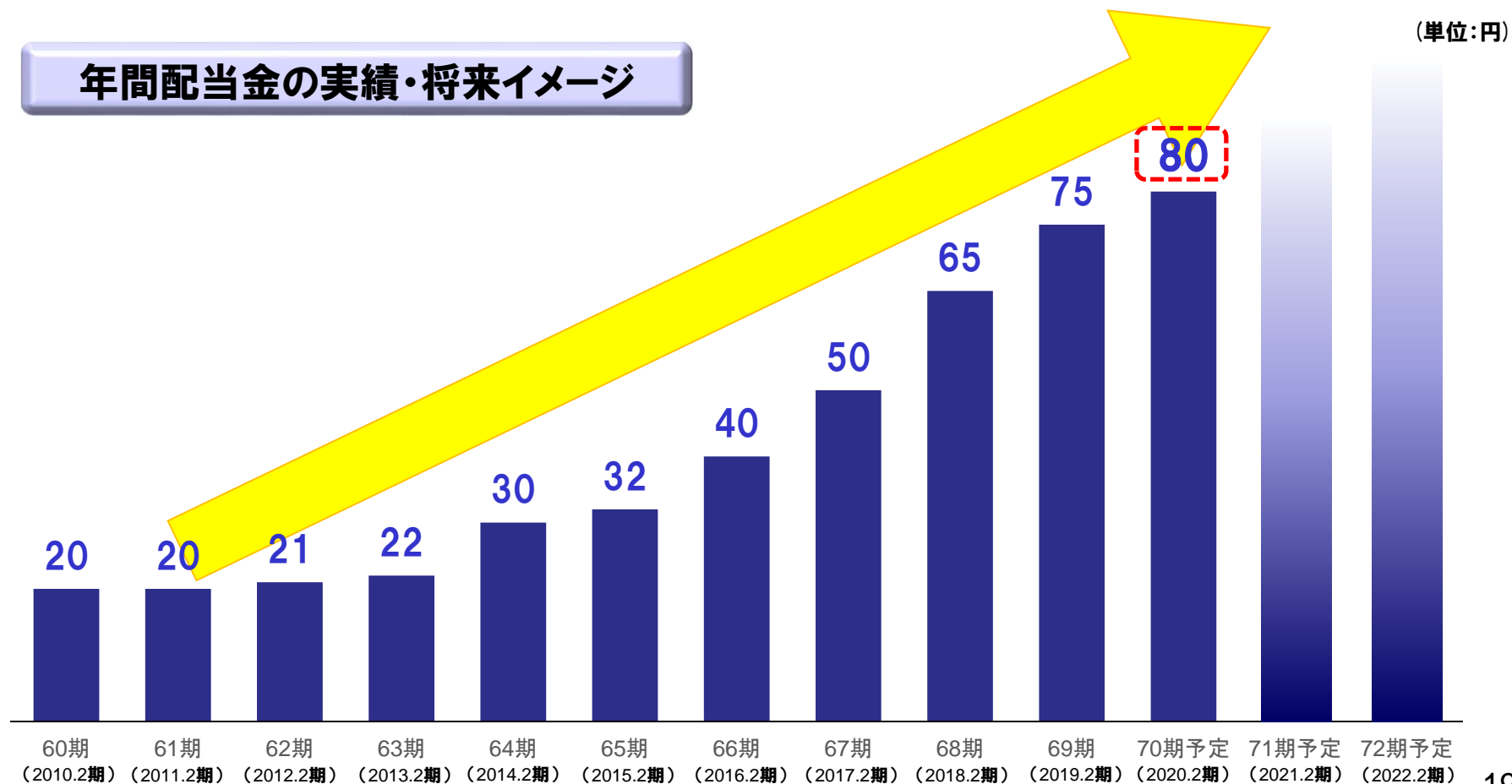
・取得期間：2019年4月11日～2019年9月30日

・取得方法：①ToSTNeT-3による買付  
②信託契約に基づく市場買付

# 連続増配へのこだわり

- 利益成長、還元水準の向上による増配へのこだわりを堅持
- 2020年2月期は5円増配の80円予定、9期連続の増配の見通し
- 将来的に年間配当100円を目指す

## 年間配当金の実績・将来イメージ



# 2020年2月期 株主還元の見通し

- 9期連続の増配、年間配当1株当たり80円を予定(前期差5円増配)
- 前期に引き続き大規模な自己株式の取得を実施  
(3/4 13万株取得済、4/10 上限135万株取得リリース)

**資本効率の向上に継続的に取り組むとともに、  
連続増配へのこだわりを堅持し、株主還元水準の向上を図る**

	第69期 (2019/2)	第70期 (2020/2) 予想
1株当たり年間配当金(円)	75.0	80.0
EPS(円)	96.03	133.78
配当性向(%)	78.1	59.8
総配分性向(%)	369.3	162.9

## <参考:経営指標(のれん償却前当期純利益にて)>

	第69期 (2019/2)	第70期 (2020/2) 予想
ROE(%)	6.2	9.1
EPS(円)	115.6	174.1

※第70期の予想EPSは、2019年2月末の株式数に公表済みの2020年2月期に実施する自己株式取得総数の上限を反映させて算出

## ジュエリー事業の再構築により 事業基盤の強化と自家需要の拡大をはかり 利益成長の幅を広げる

のれん償却前営業利益成長イメージ

54.8億円

ジュエリー事業における  
自家需要の拡大

ジュエリー事業の基盤強化  
+  
アパレル事業の安定成長

成長要素

事業基盤

69期 (2019.2期)    70期 (2020.2期)    71期 (2021.2期)    72期 (2022.2期)    73期 (2023.2期)    74期 (2024.2期)    75期 (2025.2期)    76期 (2026.2期)    77期 (2027.2期)    78期 (2028.2期)    79期 (2029.2期)

## 現状と環境変化

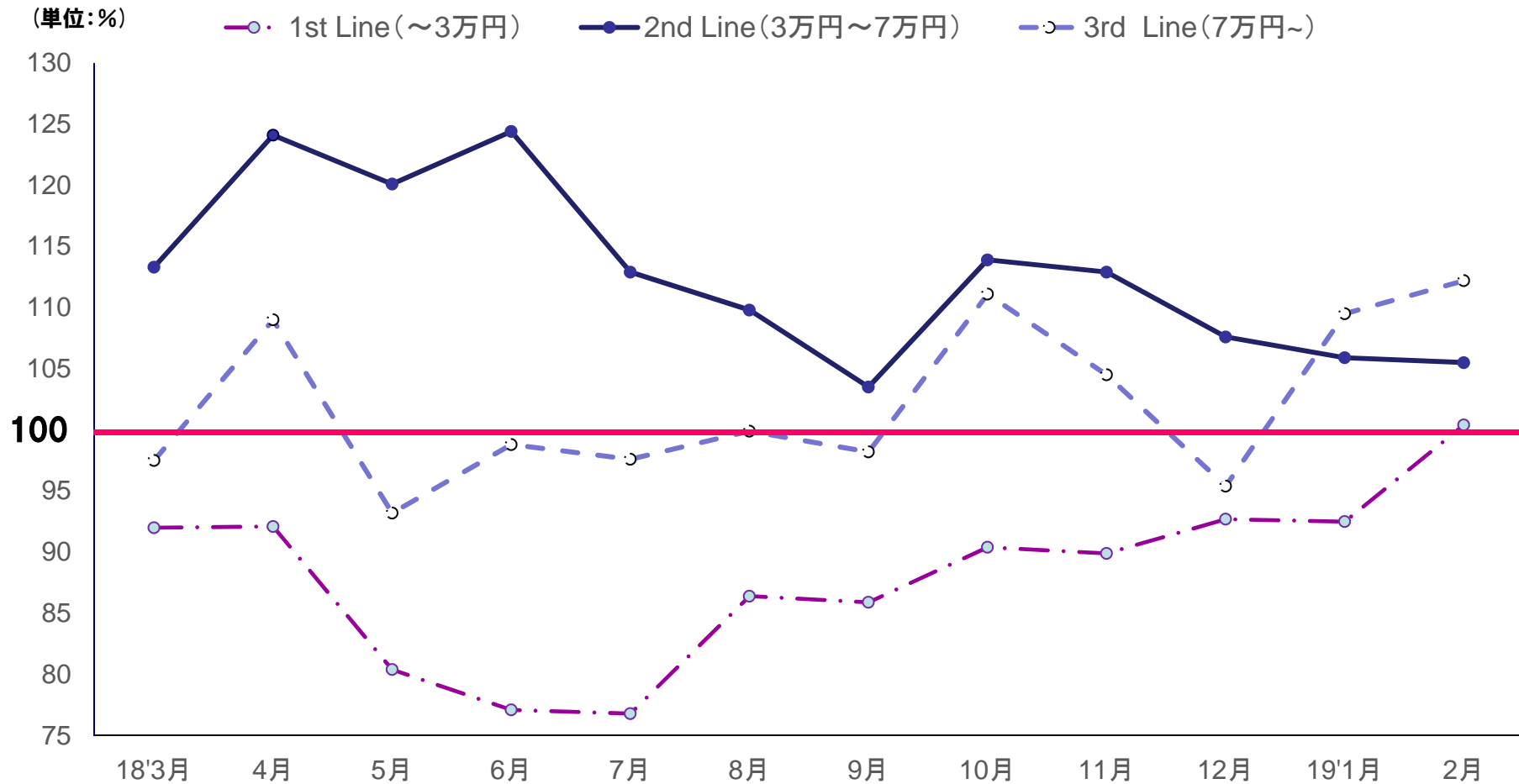
- **チャンネルを超え市場はよりシームレスへ、競争環境は一層激化する見通し**
- **ブライダルジュエリーの回復に時間を要す**
- **クリスマスのギフトマーケットに変調、国内ジュエリーブランドは総じて苦戦**

## 目指す姿

- **ブランド価値の向上、強固な企業体質を構築**
- **国内トップシェアを目指す**

# 「4°C」ブランドの価値向上 3Line MD

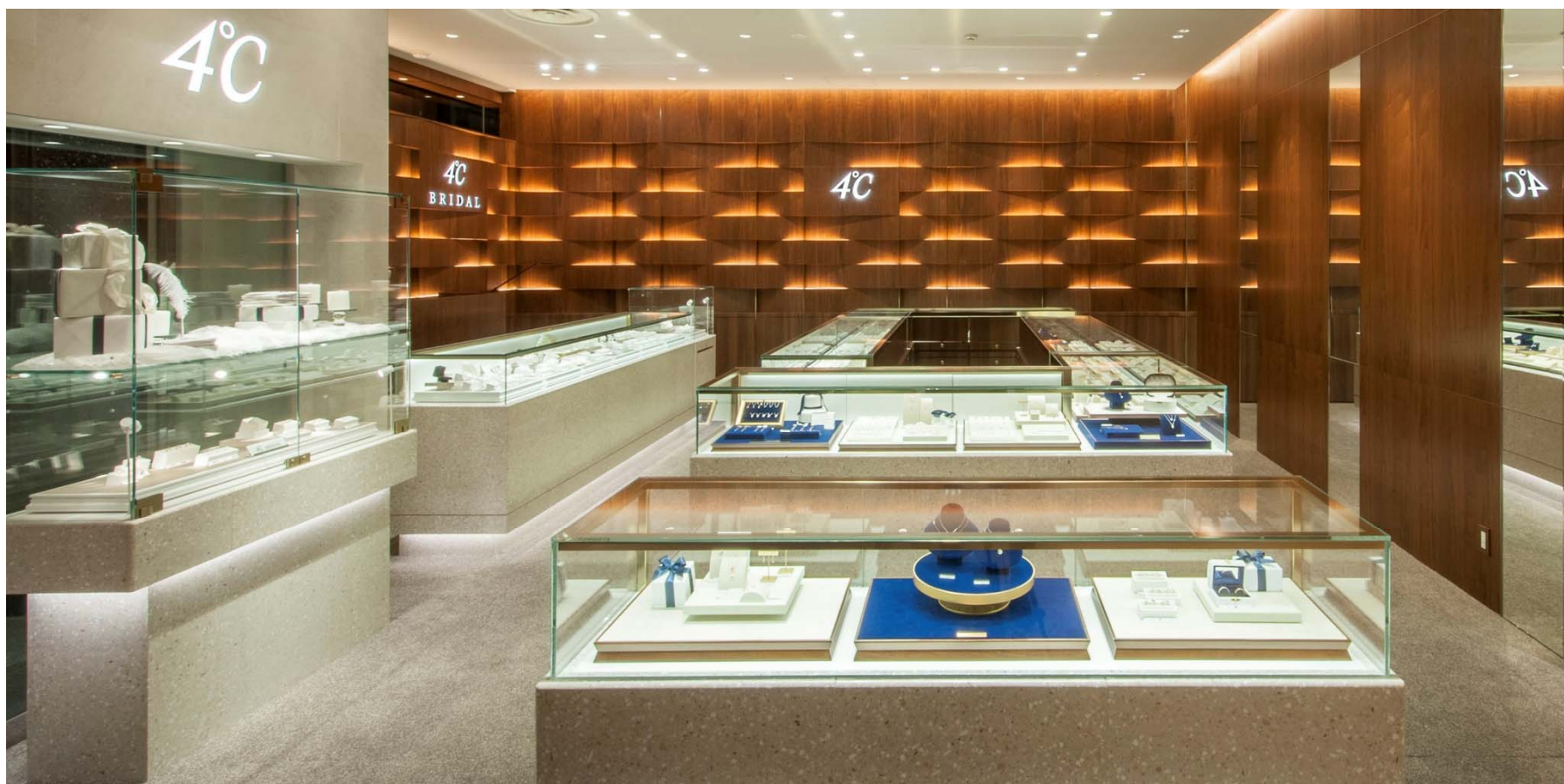
- 価格帯別ゾーン展開により属性にあわせたきめ細やかなMDを実践
- 中・高価格帯商品(2nd/3rd Line)の拡充により自家需要が伸長
- 1st LineもMD修正により既存店売上高は回復基調へ



# 「4°C」ブランドの価値向上 新プロト展開の拡大

4°C  
holdings group

- 新店・改装により2019年2月期末の4°C新プロト展開店舗数は14店舗へ
- 新プロトに改装した店舗の既存店売上高は旧プロト既存店より7.9pt上回る
- 2020年2月期以降も新プロトを着実に推進(新店6・改装4、期末24店舗予定)





## 社外リソースも取り入れ「4°C」リブランディングへ本格着手

2018年2月期

### ギフトイメージからの脱却

- ・プロモーション方針変更
- ・新プロト店舗の展開スタート

2019年2月期

### 自家需要への対応強化

- ・価格帯別ゾーン展開  
(3Line MD)スタート
- ・「4°C」ブランドサイトの  
本格リニューアル

2020年2月期～

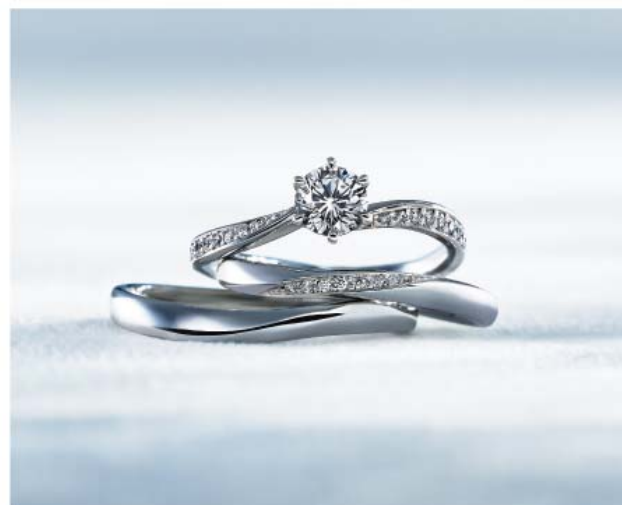
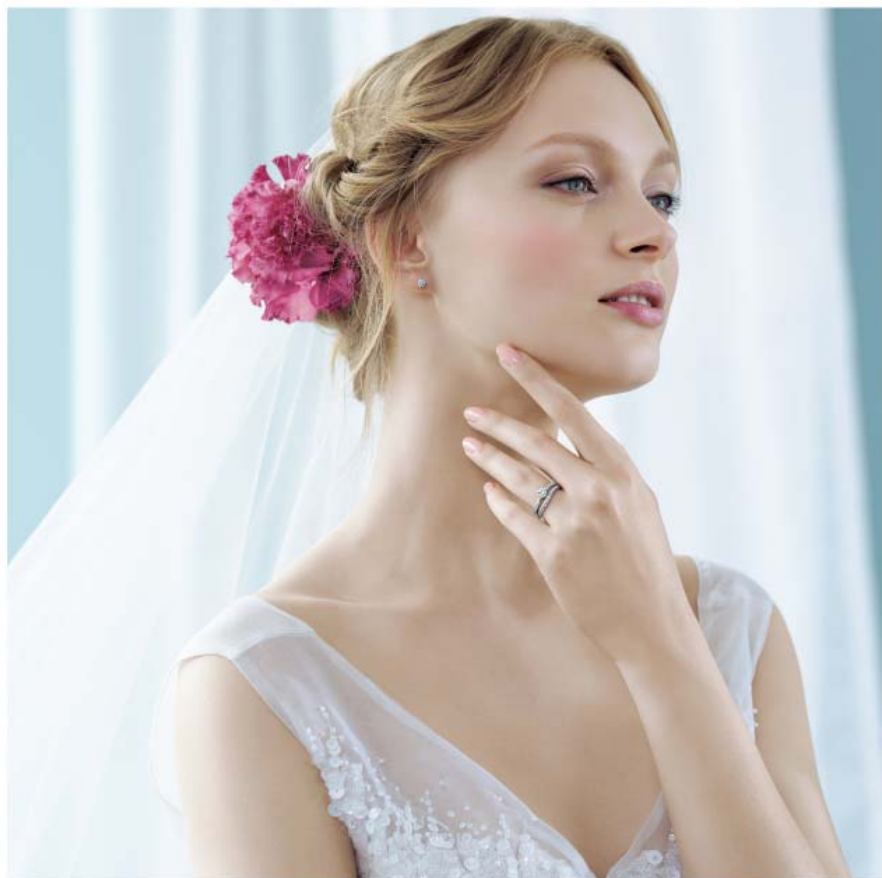
### 「4°C」リブランディングへ

- ・お客様に伝わる  
ブランド価値の再構築

# ブライダルジュエリーの競争力向上

4°C  
holdings group

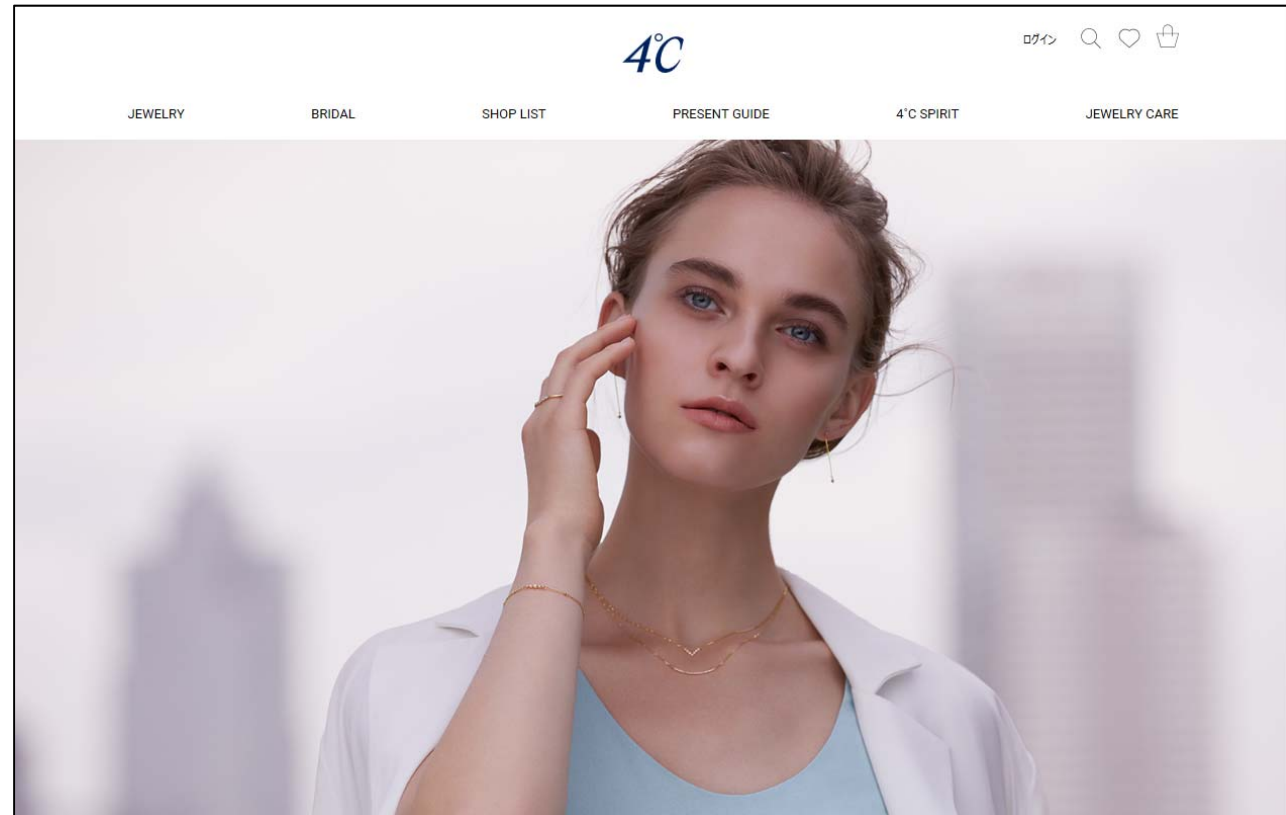
- 百貨店チャネルの「4°C」ブライダルジュエリー、優待制度加入の効果に期待
- 専門店「4°C Bridal」、タッチポイント増加による来店予約拡大を目指す
- 2019Year model「Our Story」展開、独自の世界観を訴求



- リブランディングの実行によりブランド力向上を図る
- 独自の世界観を訴求し更なる成長へ
- ブランド誕生10周年を記念したイベント、商品開発を実施



- SNSの活用によるお客様とのコミュニケーション強化
- アプリの開発、ファン顧客の利便性とCRMの精度向上
- フェアイベント等におけるECと実店舗の連携強化



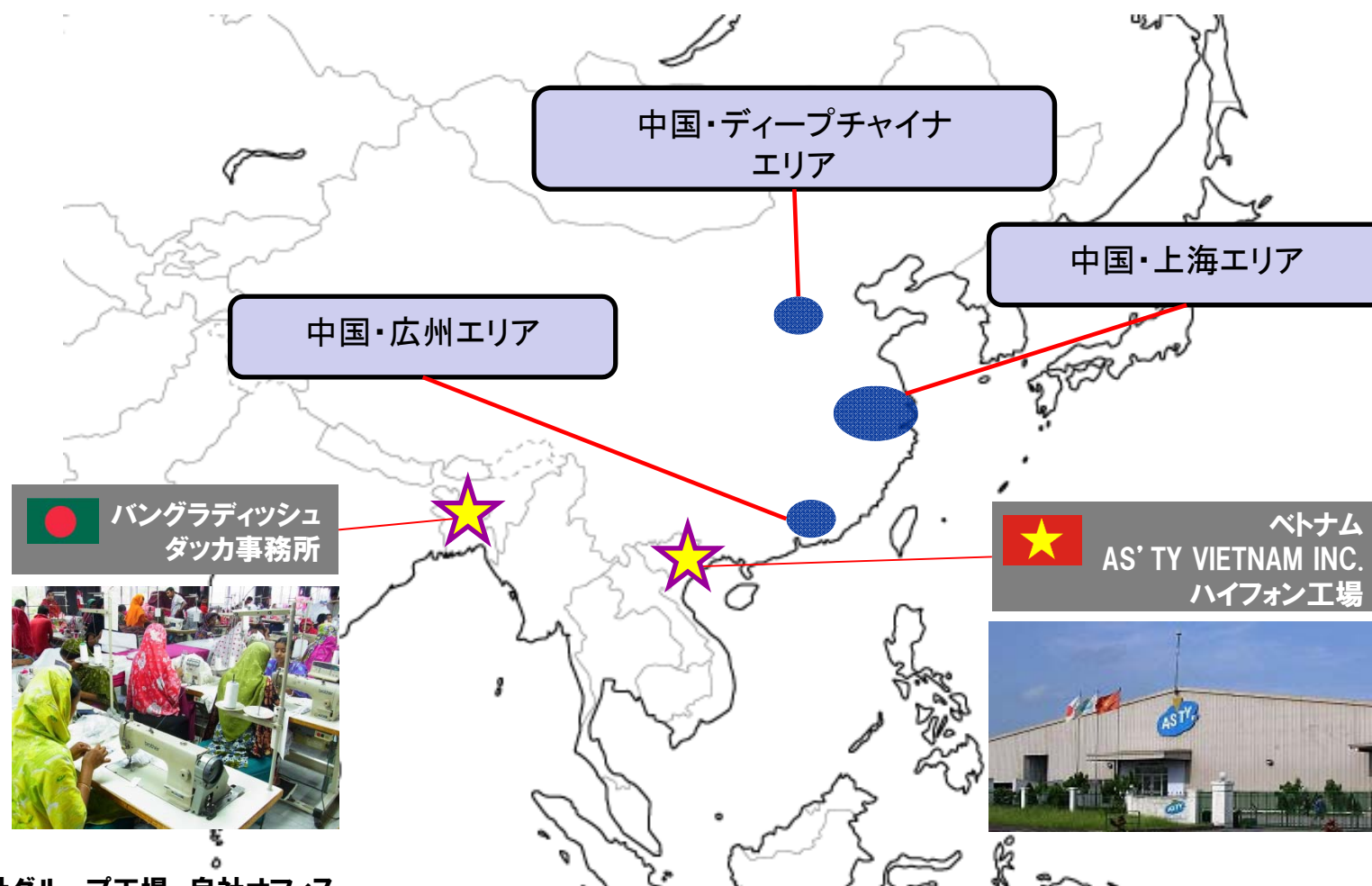
## 現状と環境変化

- 淘汰が進むなか、独自性・優位性を持つ企業が残る
- アパレルメーカー事業、バングラデシュへの生産シフトの取り組みを継続強化
- デイリーファッション事業、「パレット」の出店拡大による関西ドミナントの深耕を図る

## 目指す姿

- アパレルメーカー事業、海外生産背景と商品企画力へ磨きをかけ、ODM機能の更なる強化を図る
- デイリーファッション事業、関西ドミナント出店の継続により将来的に売上高150億円を目指す

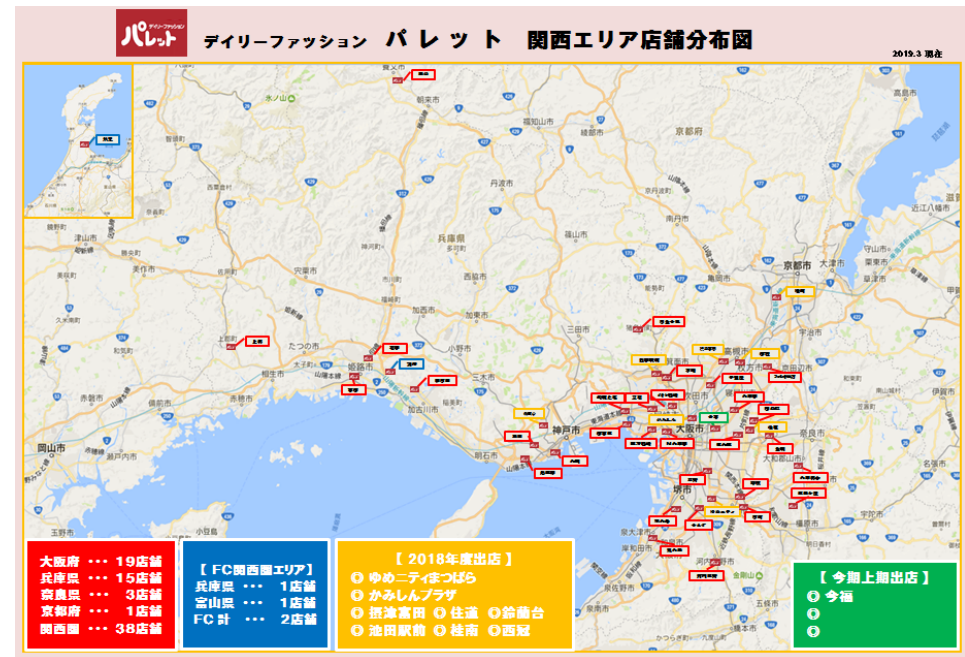
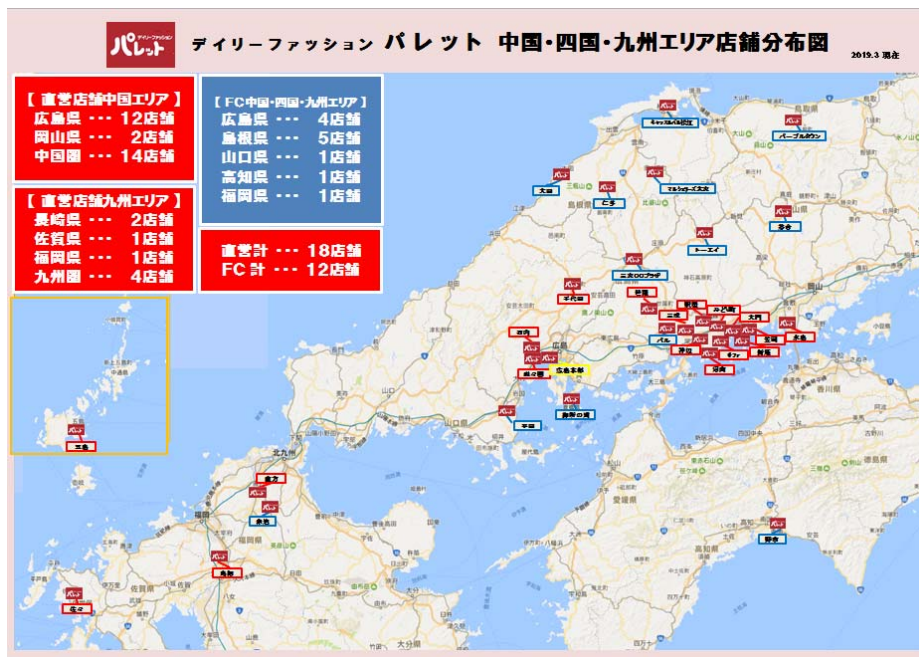
- バングラデシュの素材背景・商品企画力を活かした新提案への取り組み
- 既存取引先との取り組み強化による安定運営の実施



★ : 自社グループ工場、自社オフィス

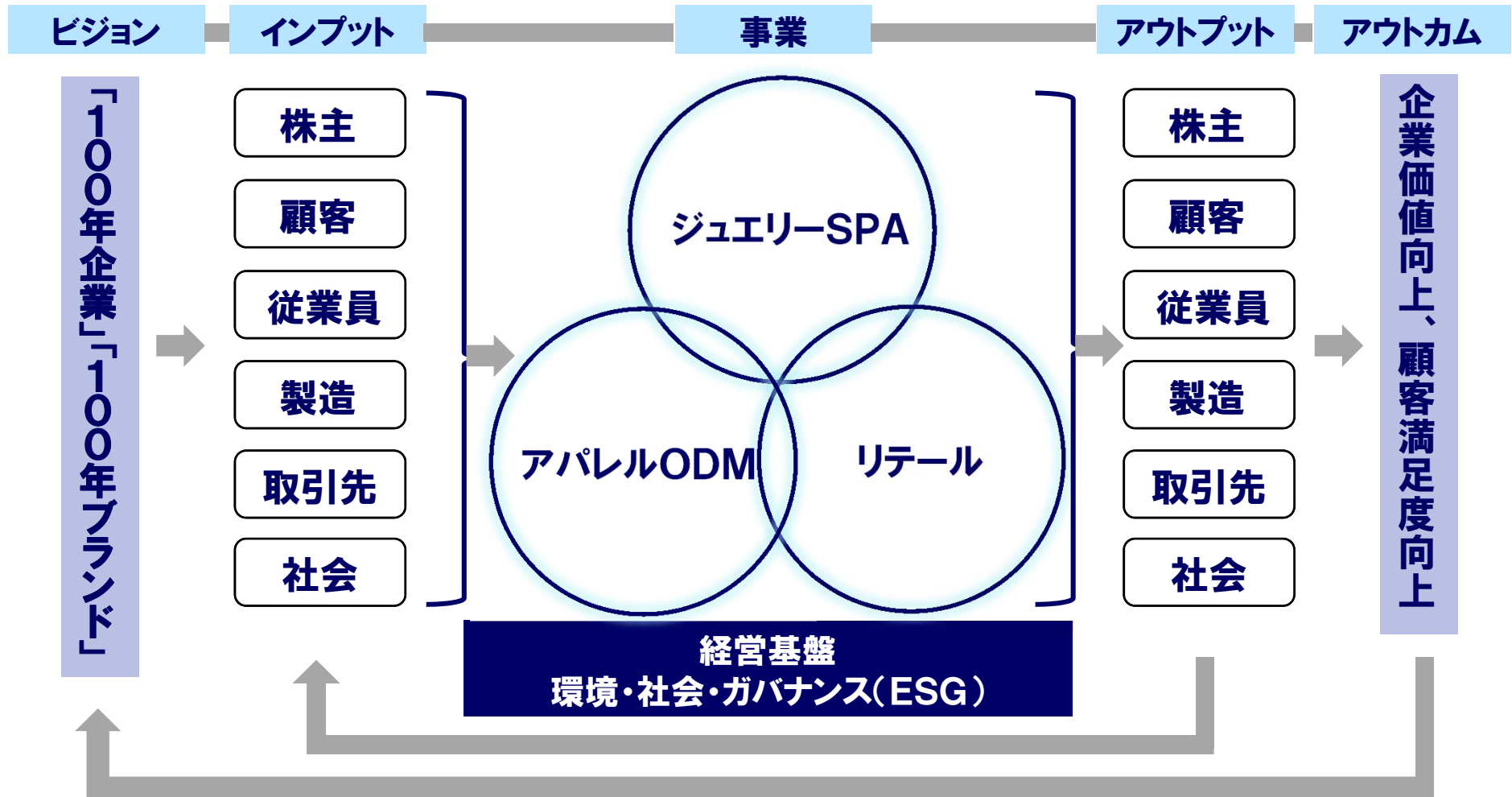
# デイリーファッション事業

- 関西を中心とした「パレット」の出店拡大により2020年2月期にて売上高100億円突破の見通し、将来的には売上高150億円を目指す
- 商品管理力の強化、直接貿易や商品開発への取り組みにより利益率の向上を図る



# 安定的・継続的成長に向けて～持続的価値の創出

ジュエリーSPA、アパレルODM、リテールの3事業で価値拡大を目指す





# ESGの課題への取り組み①



## ◆ 国内2社のみ(2019年4月末現在)となるRJC認証企業 (株)エフ・ディ・シー・プロダクツ)としてジュエリー業界における 各分野の信頼性・水準向上へ寄与すべく邁進

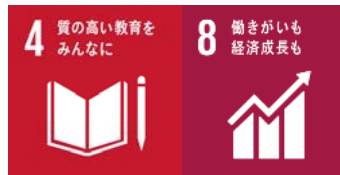
- 責任ある取引とサステナブル(持続可能)な経営・社会の実現に向けた取り組みを推進
- 品質、サービスの水準、価格や素材背景の透明性を高める
- ブランドとしての信頼性をより明確にすることで、ブランド価値の更なる向上を目指す



※RJCとは・・・

「発掘から小売まで」の全工程において、ダイヤモンド・金・プラチナの「責任ある取引」を実現することを目的に、宝飾業界を対象とした社会・環境責任の範囲をカバーする規範と規格を開発する国際的な非営利組織

## ◆グループ人材補強・育成の推進



- 次世代リーダーの育成
- グループを横断した人材教育・登用、採用活動
- 社内外の研修を通じた人材育成の推進

## ◆ダイバーシティ経営の推進



- 働き方改革(ワーク・ライフ・バランス)の推進
- 女性の活躍推進への取り組み強化

## ◆品質管理



- 業界トップクラスの品質管理体制の更なる充実
- 商品・サービスにおける信頼性の向上

# Contents

I. 2019年2月期決算概要

II. 中期的戦略アプローチ

**III. 2020年2月期業績予想**

# 2020年2月期連結業績予想

(百万円、%)	第69期(2019/2)		第70期(2020/2)		前期比
	実績	(%)	通期予想	(%)	増減(%)
売上高	47,118	100.0	47,300	100.0	+0.4
売上総利益	27,155	57.6	27,265	57.6	+0.4
売上総利益率	57.6		57.6		±0
販売管理費	22,171	47.1	22,165	46.9	±0
内、のれん償却費	496	1.1	496	1.0	±0
営業利益	4,984	10.6	5,100	10.8	+2.3
経常利益	6,804	14.5	5,400	11.4	▲20.6
当期純利益	2,440	5.2	3,400	7.2	+39.3
《参考》	第69期(2019/2)		第70期(2020/2)		前期比
のれん償却前営業利益	5,480	11.6	5,596	11.8	+2.1
のれん償却前当期純利益	2,937	6.2	3,896	8.2	+32.7

※のれん償却前営業利益＝営業利益＋のれん償却額、のれん償却前当期純利益＝親会社株主に帰属する当期純利益＋のれん償却額

# 2020年2月期 重点経営指標の予測

## のれん償却前利益による

	第69期 (2019/2)	第70期 (2020/2) 予想
<b>営業利益(百万円)</b>	5,480	5,596
<b>ROE(%)</b>	6.2	9.1
<b>EPS(円)</b>	115.6	174.1

※のれん償却前営業利益＝営業利益＋のれん償却額

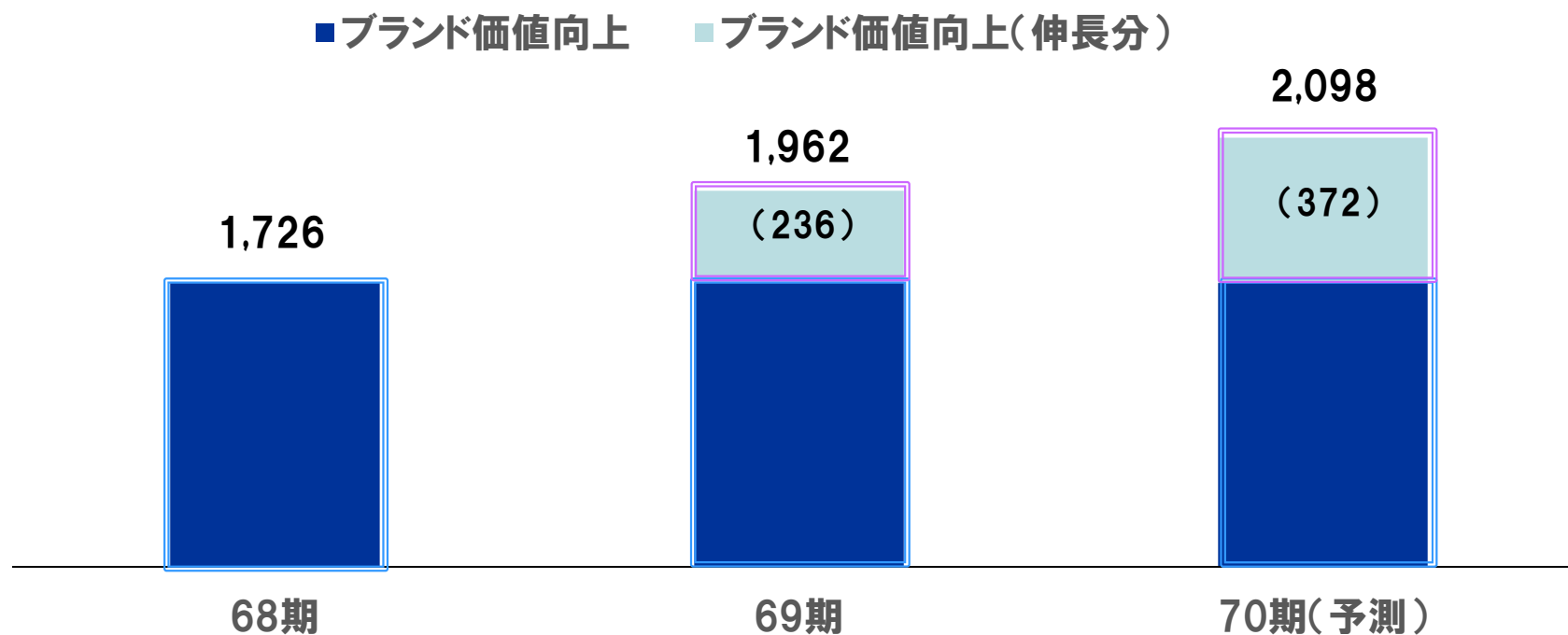
※のれん償却前当期純利益＝親会社株主に帰属する当期純利益＋のれん償却額

※第70期の予想EPSは、2019年2月末の株式数に公表済みの2020年2月期に実施する自己株式取得総数の上限を反映させて算出

- ブランド価値向上への投資および成長分野への投資を継続
- 次期中計に新たな成長戦略を描くことのできる強固なブランドと企業体質の構築へ

## ブランド価値向上への投資額

(単位:百万円)



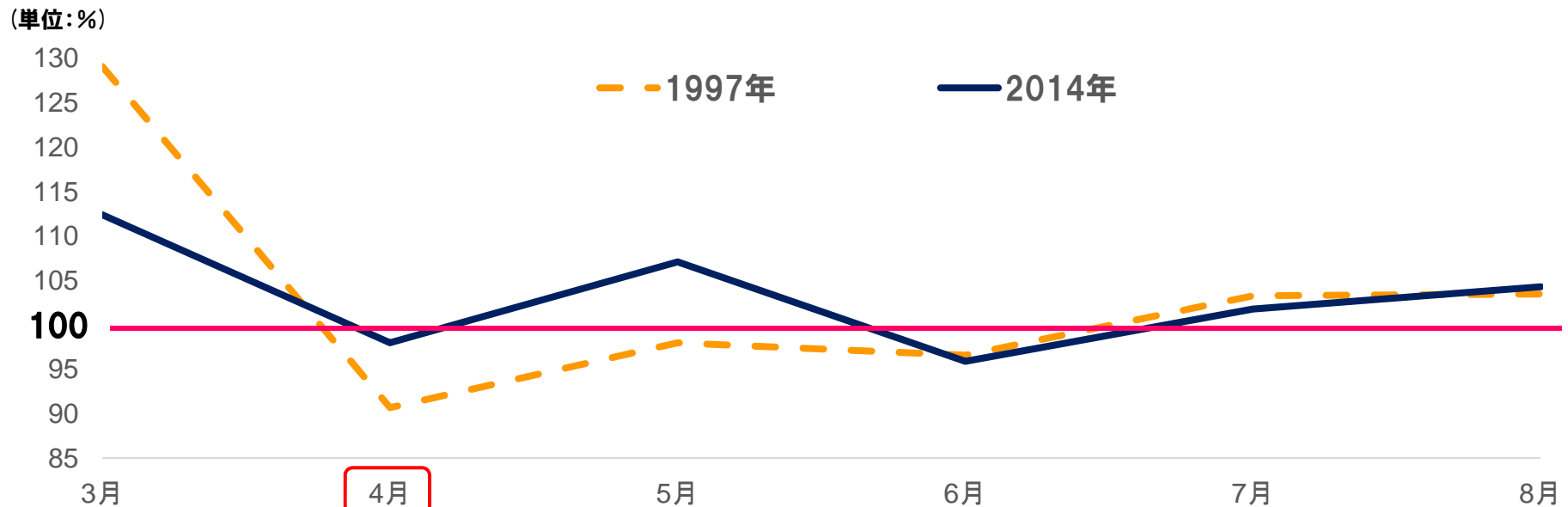
# 2020年2月期セグメント別連結業績予想 (内部相殺後数値)

- ジュエリー事業、スクラップ&ビルドにより収益力向上を図り減収増益の見通し
- アパレル事業、パレットの出店拡大により増収増益の見通し

(百万円、%)		第69期 (2019/2)	第70期 (2020/2)	
		実績	予想	前期比
ジュエリー事業	売上高	29,295	28,500	▲2.7
	営業利益	4,465	4,600	+3.0
	経常利益	4,572	4,700	+2.8
	当期純利益	2,981	3,200	+7.3
アパレル事業	売上高	17,822	18,800	+5.5
	営業利益	603	740	+22.7
	経常利益	904	925	+2.3
	当期純利益	4,582	560	▲87.8

# 消費税率引き上げの影響

ジュエリー事業、駆け込み需要とその反動はあるも、3ヶ月で平準化する見込み



既存店	3月	4月	5月	6月	7月	8月
1997年	129.1	90.7	98.0	96.6	103.3	103.5
2014年	112.4	98.0	107.1	95.9	101.8	104.3

## 消費税率引き上げ

- ①1997年4月1日 3% → 5%へ    ②2014年4月1日 5% → 8%へ



# 出退店の計画

- ジュエリー事業はスクラップ&ビルドにより店舗収益力の向上を図る
- アパレル事業はパレット6店舗出店の計画

		ジュエリー事業					アパレル事業		合計
		国内ジュエリー					海外	パレット	
		路面店 ブティック	百貨店	ブライダル ショップ	ファッション ビル	計			
第69期 実績 (2019/2)	期末	5	76	42	86	209	4	71	284
第70期 計画 (2020/2)	出店	0	4	2	2	8	0	6	14
	退店	2	9	3	4	18	1	0	19
	期末	3	71	41	84	199	3	77	279

# ジュエリー事業における国内取扱いブランド店舗数の計画

		4°C	4°C BRIDAL	canal 4°C	EAU DOUCE 4°C	MAISON JEWELL	ジュエリー計	Luria 4°C	合計
第69期 (2019/2)	期末	91	42	46	23	7	209	51	260
第70期 計画 (2020/2)	出店	6	2	0	0	0	8	0	8
	退店	10	3	1	1	1	16	9	25
	期末	87	41	45	22	6	201	42	243

※同一店舗にて複数のブランドを扱う複合店は各ブランドごとに1店舗として計上

- 2019年2月期の減収減益から、2020年2月期は増収増益を計画
- 事業再編により2020年2月期より持分法投資利益が無くなる事にあわせて業績管理における重要指標を「のれん償却前営業利益」へ
- ジュエリー事業ではリブランディングへ本格着手、「4°C」ブランドの価値向上を図る
- アパレル事業では従来の戦略を着実に実行することで安定成長の継続を図る

- 上限135万株の自己株式取得を実施、資本政策を積極的に推し進めることで株主還元の水準向上を図るとともに、中期的な目標として掲げているROE10%以上、EPS200円以上へのこだわりを堅持  
(※のれん償却前当期純利益ベース)
- 国内トップジュエラーとして、経営の質を更に高め、業界各分野の水準向上へ貢献していく

**本資料ならびにIRに関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。**

**株式会社4℃ホールディングス**

**経営企画課 小塚(コヅカ)・森山・森**

**TEL 03-5719-3274**

**FAX 03-5719-4462**

**E-mail [ir-yondoshi@yondoshi.co.jp](mailto:ir-yondoshi@yondoshi.co.jp)**

**※将来に亘る部分につきましては、予想に基づくものであり、確約や保証を与えるものではありません。**

**予想と異なる結果となる可能性があることをご認識の上ご活用下さい。**